

平和を守る方法を 次世代へ伝えていこう

9条の意義を学び、デモ行進で平和の声響く



大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合



ホームページ

若者憲法集会2026

5月31日、東京で「若者憲法集会2026」が開催されました。北海道から沖縄まで全国から1000人が集まり、佐藤さん（東京大学名誉教授）の講演を聞きました。

大障教から青年部員を含む3人が参加し、自分たちで考え、行動するために学び合いました。

佐藤さんは、「改憲か護憲か」という単純な二択にせず、政府が「どう改憲しようとしているのか」を知る事で、今の憲法を守る意識を引き出せると話されました。また、9条2項にはGHQでは



たくさんの方々が
平和を願って集いました

佐藤さんの講演の後は、日比谷公園からのデモ行進に参加しました。2500人の行進が「改憲反対」「戦争反対」「憲法 かえろな！憲法生かせ！」と声を合わせて訴えかけ、銀座を練り歩きました。

今や、ロシアやイスラエル、アメリカによる他国攻撃など、毎日どこかで人命が奪われるという悲しみから、不安を煽るかのよう

参加者の感想

○デモに初めて参加したのは大学生の時で、安保法制に反対するためでした。日本の平和にとって重要な局面で反対の意思を表明しなければ、未来の子ども達に顔向けできないと思ったからです。また、もし改憲が進み日本が戦争の道を進むことになっても、反対の意思を示した事実は今後の自分を支えてくれると考えていました。今回、10年ぶりにデモに参加し、全国の人と共に改憲反対の意思を表明できて良かったです。憲法12条の「自由及び権利は国民の不断努力によって保持する」という言葉を改めて実感した一

日でした。無理をせず、楽しみを見つけながら続けていきたいと思います。

(青年部 上野山)

○初めて憲法集会やデモに参加しました。講演では、憲法改正を進めようとする政府の動向や憲法を改正することで日本がどう変わるのかを、わかりやすい説明を聞いて学ぶことができました。子どもたちに日本を平和な国のままで引き継ぐため、自分たちにできることは何かを改めて考える機会となりました。

(青年部 佐藤)



2500人がデモ行進に参加

いう言葉があるが、何も起こさせないようにすることが大切である」という、佐藤さんの言葉にあるように、子どもたちは、戦争の方法ではなく、平和を守る方法を伝えていくべきではないでしょうか。

(執行部 樋口 真弓)

大阪府立障害児学校教職員組合 大阪市天王寺区東高津町7-11 府教育会館704号 TEL 06-6765-8904 FAX 06-6765-8905

書記局の つづい

政府のインテリジェンス(情報活動)機能を強化する「国家情報会議」設置法が5月27日の参院本会議で、自民党、日本維新の会、国民民主党、公明党、参政党、日本保守党、チームみらいなどの賛成多数で可決、成立しました。

同法は、政府のスパイ活動の司令塔として「国家情報局」に情報活動の総合調整機能を持たせ、各省庁が収集した個人情報や官邸の意向にそって「国家情報会議」に集約します。7条では、議長(首相)が求めれば各省庁保有の個人情報や目的外に提供されます。

最大の狙いは、「安保3文書」の集団的自衛権の行使を名目に、敵基地攻撃を可能とする長距離ミサイル運用などのための日米の軍事的連携強化にあります。米国の要求に基づき、日本が攻撃を受けていなくても米国の無法な戦争に付き従うことになる危険があります。

市民監視の危険も強まります。高市首相は、政府の政策に反対するデモの参加者が「情報活動の監視対象になることは想定しがたい」、「新たな権限を与えるものではない」となどと発言しました。しかし、イラク戦争時の自衛隊の市民監視事件や大川原化工機冤罪事件など恣意的な監視、違法な情報収集活動が行われていた経過に対し政府は反省も謝罪もしていません。なにより同法には、国家情報会議・局の活動に対する国会や第三者機関によるチェック・監視体制などの民主的規制は一切ありません。政府による情報発信・情報統制・世論誘導という役割を担う危険性が指摘されています。

安倍政権以来強行された特定秘密保護法、共謀罪法、経済安保法など一連の治安立法の総仕上げとして狙われている、「スパイ防止関連法」や「対外情報庁の創設」などに反対し阻止する声を広げる必要があります。

大障教定期大会 発言ダイジェスト(その1)

組合の価値をもっと自然に、身近に伝えていきたい



長年分会を支えた前任者から、昨年度より分会長を引き継ぎました。当初は不安ばかりで、現在も力不足を痛感する日々です。大規模校ゆえの教員不足、教室

不足や圧縮学級、教職員の疲弊など、改善するべき課題は山積しています。

一方で、先人たちが声を上げ闘いを積み重ねてきたことで、働き方や職場環境が改善された部分もあり、「組合がないと困る」という実感を持ちにくかったり、多忙の中で組合活動に関わる余裕が持てないと考える方が増えたりしていると感じています。職場で「ニュース読んだよ」などと声をかけてもらうことはあっても、加入にはつながらない難しさや自分自身の多忙もあり、分会活動にしんどさを感じることがありました。それ

忙しい日々の中でも、つながりや学びを感じる企画を

青年部 北坂代議員

今年度の大障教新歓教研では、神戸大学の赤木先生の講演に、1〜3年目の未組合員の同僚と一緒に参加してくれました。特に1年目の先生は、初めての支援学校に毎日戸惑っている様子でしたが、講演中の雑談の時間に、クラスの子どものことや悩みを深く共有できたのが印象的でした。赤木先生の話は、新転任の先生だけでなく私自身にも学びや気づきが多く、明日への活力

になりました。

講演後は韓国ランチを囲み、同僚同士が打ち解け、組合のことを知ってもらえる機会にもなり、誘ってよかったと感じました。

青年部のスポーツレク企画では、スポーツが得意な人もそうでない人も一緒に楽しめて、子どもたちのことを語り合えるようにと、ボッチャベイスポールを企画しました。試合は大盛り上がりで、実際の授業にもつながる内容でした。

参加者からは、他校の先生と交流できたことや、クラスの子どもの思い浮かべながら楽しめたという声もありました。忙しい日々の中でも、つなが

寝屋川支援分会 佐野代議員

本質だと実感しています。

子どもたちと教職員のよい良い環境づくりにつながっていくために、職場の声を集めて伝えること、困っている人を一人にしないこと、おかしいと言える場がある

こと、それらは組合があるからこそ成り立っている大切なことです。組合の価値をもっと自然に、身近に伝えていけたらと思います。

りや学びを感じ、「組合っていいなあ」と思える企画を、今後も続けていきたいです。

限界を超えた「過大・過密」に、校舎の老朽化 早急な対応を！

八尾支援分会 伊藤代議員



今年度、小学部1〜6年生で191人の児童が在籍しています。私が転動してきた7年前に比べ70人ほど増加しており、当然、教室は足りません。設置基準を満たすには

35クラス必要ですが、現状は24クラスしか設置されておらず、その大半が圧縮学級です。1年生でも8人クラスが当たり前で、担任教員3人体制では安全確保で精いっぱいです。音楽室や図書室などの特別教室はなく、本来支援学校にあるべき環境がありません。

高等部と重なり、教室で行う場合も多くあります。全員が同時に準備体操すらできず、児童らがのびのびと身体を動かすことができない環境です。また、トイレの個室も足りず、空いている場所を探して違う階まで移動することもしばしばです。

「過大・過密」だけでなく校舎の老朽化も激しく、天井、パネルや窓の落下、水道管の破裂などがありました。高等部に至っては50年以上ブレハブ校舎での授業を強いられ、おり、真夏は冷房をフル稼働させても室温30℃という劣悪な環境です。校内努力でなんとか教育の質を保持しようとしていますが、すでに限界を超えています。早急な対応を求めています。



組合員の声を紹介します。あなたも大障教へ！

届け続けた声の実現！よりよい職場環境を

栄養教員部 金澤 知未



組合に加入したきっかけは、勤務校での給食調理業務の委託化が決まって業務量の過大になったところに親の介護が重なって不安だった中で、栄養教諭の先輩が「現場の声を届けましょう」と自作のビラを配られていたのを目にして、なにか少しでも協力できたらという思いから加わりました。

少数のため栄養教諭・臨時技師の困りごとは周りに届かない上に、何も言わなければ業務は過大になる一方です。私自身、妊娠初期の病休中も自宅で仕事をせざるをえなかったり、とても不安な思いをしたこともありました。ですが、組合のみなさんの尽力のおかげで今年度からは妊娠育児介護についても常勤の臨時技師をつけていただけるようになり、指導栄養教諭のいる学校にも複数配置が実現されて、届け続けていた声の実現しています。仕事も家事もある中で、交渉などで現場の声を届け続けることはとても大変ですが、よりよい職場環境を後輩たちへつなげられたらと思います。

栄養教員部の栄養教諭・臨時技師たちと仕事以外もいつでも相談できることが、とても心強いです。ぜひ一緒に仲間になりましょう。